

## 3・11 脱原発佐賀アピール

いま、梅の花が満開です。  
毎年春になるとワクワクしていましたが、今年は心が弾む感覚が芽生えてきません。  
あれから1年、一体何がどう変わったのでしょうか？

福島第一原発の事故のせいで、放射能に汚染された土地に住むことを強られる人々。  
放射能に怯えながら生きていかなければいけない子ども達。  
事故現場で被曝し続ける労働者。  
大切な仲間や愛する家族と分断され、人生を引き裂かれた人々。  
どうしてこんなことになってしまったのだ！  
どうしてふるさとを離れなければならなくなったんだ！  
怒りと涙で毎朝、布団の中で子どもと一緒に泣いていた、九州に避難してきたお母さん。  
家族のもとに行きたいのに、強い放射線にまみれながら仕事をしている福島のお父さん。  
生まれたばかりの可愛い孫たちをそばに置いておくのは恐ろしいからと、九州に出してくれた優しいおじいちゃん、おばあちゃん。  
福島の方々の犠牲に報いる事は、脱原発を果たすこと。これ以上でも、これ以下でもありません。

昨年12月25日、玄海原発4号機が定期検査に入り、停止しました。  
九州電力がもつ原子炉6基すべてが止まったのです。  
九州の中で原発が止まった途端に、停電したところがあるのでしょうか。  
現在、全国では54基の原発のうち52基が停止しています。  
残り2基を止めて、原発がないと電力が足りなくなるってウソだったという事を証明しましょう。  
それが明らかになると困るので、こっそり再稼働の準備をしている事にも目を光らせましょう。

原発がある町や県だけが被害にあうわけではないことを、福島事故は教えてくれました。  
福島に皆さんに犠牲を強いるまで、気づけなかった事に責任を感じています。  
でも、私達はもう、見てみぬふりはしません。  
どの地域からどんな立場からでも、やっぱり「原発はいらない！」を堂々と叫ぶときです。  
いのちを尊び、生きていきたい。  
未来の子ども達、まだ見ぬ世代に素敵な故郷を手渡したい。  
2011年3月11日以降、どう希望を繋いでいったのか、どう生き抜いてきたのか、胸を張って意気揚々とバトンタッチしたい。

私達は福島を忘れない。  
行動を起こすのは今。  
みんなの力で原発を止めよう。

2012年3月11日

忘れないで3・11 脱原発佐賀行動 参加者一同